

「職員録だって歴史資料なのです」

開催要項

1 会 期 令和3年2月26日（金）～4月11日（日）

休館日：月曜、第4木曜、祝日の翌日

2 場 所 福井県文書館 閲覧室（観覧無料）

3 趣 旨

今回の展示で紹介する職員録は、国または福井県に属する職員の名簿として作成または刊行されたものであり、明治初期には「官員録」と呼ばれていたものもあります。

こうした職員録は、通常、新しいものが発行されると古いものは捨てられてしまう運命にあります。これらを長いスパンで捉えた場合、その組織の規模や構造がどのように変遷したのか、どのような人物がどのような業務を担当していたのかを遡って知ることができる貴重な歴史資料となります。

本展示では、明治以降に作成、発行された国や県（藩）の職員録などを紹介し、そこからわかる福井県の歴史や時代背景、登場する人物の軌跡などを紹介します。

4 主な展示資料

（松平文庫）

- ・「福井藩職員録」…廃藩置県前の明治2年頃に作成された福井「藩」の「職員録」です。札ごとに職員の名前が書かれ、異動時はそれを剥がして異動先に貼り付けていました。明治2年（1869）頃
- ・「足羽県官員付」…明治4年から2年間存在した足羽県の官員録。明治4年（1871）頃

（文書館資料）

- ・「官員録全（矢尾真雄家文庫）」…国が活版印刷により発行した官員録で、当時の明治政府や各府県の人事が網羅されている。大久保利通、板垣退助といった名前のほか、由利公正や村田氏寿といった県人の名前も記載されています。明治8年（1875）
- ・「置県一周を祝う松平慶永（春嶽）の書簡」…福井県が誕生した翌年の記念日に春嶽公が寄せたもの。「この祝日を死んでも忘れない」とその喜びを表しています。明治15年（1882）

（県立図書館貴重資料）

- ・「福井県職員録（坪川家旧蔵文書）」…福井県誕生後に初めて作成された「福井県職員録」明治14年（1881）

（県立博物館資料）

- ・「敦賀県官員録」…現在の福井県とほぼ同じ区域を管轄していた敦賀県の官員録。明治6年（1873）
- ・「明治14年2月7日付太政官布告」…太政大臣によって発せられた布告で、越前と若狭を管轄とした福井県を新たに置くとした内容です。